

辺野古埋め立て土砂搬出反対ニュース

北九州連絡協議会 <<2016年6月24日・No47>>

連絡先…森下宏人 090-9495-3902 八記久美子 080-1730-8895



ダグラス・ラミス氏

沖縄で実感…基地がある限り事件は続く 兵教育で罪悪感なくす…凶悪犯罪の背景

私は6月に沖縄を訪問し、17日の名護市での(島袋里奈さんは名護市出身)追悼集会と、19日の6万5000人の「沖縄県民集会」に参加しました。

私はその中で、今度の事件を本当に最後にするためには、基地をなくす意外にないと、強く感じました。とくに地元の新聞に載っていた、元海兵隊員で、沖縄キリスト教学院大学客員教授のダグラス・ラミスさんの新聞インタビューに衝撃を受けました。以下省略を紹介します。(事務局 八記久美子)

■兵士教育について

- ・人を殺すことのできる人間にしていくための独特の教育がある。
- ・一般的に軍内には正式なマニュアルに書かれた教育と、口伝えの教育の二種類がある。
- ・口伝えは、軍曹が入ったばかりの兵士に、酒の場や男だけの場で語るようなことだ。
- ・そこでは、女性蔑視、人種差別、沖縄差別的なものが含まれる。それが問題の根源だ。

■口伝えは必要か

- ・海兵隊は実戦で人を殺す。普段からそのための訓練・準備をしないとイケない。人を殺しても、罪悪感がわいてこないようにしないとイケない。
- ・この人たちなら殺したら大問題だけど、こういう人は殺してもいいということを教えるようにする。
- ・「同じ人間じゃないか」と気づいた人は、心的外傷後ストレス障害(PTSD)など、病んでいくことが多い。
- ・マニュアルの教育は、改善点はあるが、1995年の事件以来、沖縄の司令部は兵員教育について、よき隣人を目指して「これ以上できない」という所までやっていると思う。
- ・礼儀や人権意識など、マニュアルで教えていることが教育として成功すれば、海兵隊は戦争できない。
- ・それくらい口伝え教育は海兵隊にとって大切なもの。
- ・事件後日本政府は教育をしっかりとしろと言い、米側はわかったというが、それは決まり文句だ。米軍基地がある限り、また事件は起こる。(琉球新報の記事から抜粋)

稲嶺恵一元知事も

「海兵隊はほかの3軍と比べやはり異質だ。人間性を壊しながら訓練していく。」と、発言しています。



人・人々の県民集会。全国協議会から、共同代表の阿部悦子さん、山口の大谷正穂さんも、一緒に参加しました。

裏面にいろいろな日程を載せています。是非、ご参加下さい。

辺野古埋め立て土砂搬出反対北九州連絡協議会 第2回定期総会を開催します

記念講演は「ミスターゲート前」の山城博治さん

(沖縄平和運動センター議長)

○日時・・・8月7日(日)

第1部 記念講演 14時～15時40分

第2部 総会 16時～17時

○場所・・・北九州商工貿易会館・2階多目的ホール



名護警察署の前で抗議中の山城さん

次回の署名の締め切りは、7月25日です

現在の第2次署名数

- ・辺野古埋め立て撤回・・・5,704 筆
- ・ケーソンを作らせない・・・118 筆

不定期連続学習会第2回「辺野古裁判・イロハ教室」予定

昨年、翁長知事の「埋め立て承認取り消し」から始まった3つの裁判。和解勧告文では、1999年の「地方自治法改正」で、国と地方の自治体が対等・協力の関係になったのに、いまだに地方自治体を、自分の手足としてしか考えていない国の姿勢が、「地方自治法」の精神に反している、「本来はオールジャパンで米国に協力を求めるべき」と批判されました。地方自治法改正の趣旨を歪曲してでも、辺野古埋め立て工事を進める政府の《むき出しの権力》に対する批判が示されたわけです。わかりにくい裁判の流れとその内容を、やさしく勉強したいと思います。

詳細は追ってお知らせします。

是非ご参加ください。



仲村未央沖縄県議を迎えての学習会

昨年11月から施行された、「沖縄県土砂条例」を作る中心となった、沖縄県議の仲村未央さんをお迎えして、学習会を開きます。アルゼンチンアリやオオキンケイギクなどの「特定外来種」の状況や、「土砂条例」の内容とその活用の仕方などを学びます。詳細が決まり次第お知らせします。予定は9月くらいで、下関で行います。

全国連絡協議会 第3回総会 in 天草

日程は、10月1日(土)・2日(日)ですが、それ以外の詳しいことは、決まり次第お知らせします。天草の土砂搬出予定地の見学もあります。みんなで参加出来るといいなあと思っています。

左下の写真は、門司区馬寄で咲き誇る特定外来種のオオキンケイギク。右下は先日訪問した小豆島の採石場近辺で見かけたオオキンケイギク。

